

第10回「住宅部品点検の日」シンポジウム・令和3年10月6日 来場者アンケート結果

I. アンケートの目的

令和3年10月6日、東京大神宮マツヤサロンを会場としてWEBによるオンライン開催した第10回「住宅部品点検の日」シンポジウムに対する評価を確認するとともに、今後のシンポジウムを計画する際の参考となる情報の収集を目的とした。

II. アンケートの方法

シンポジウムのWEB（Zoom ウェビナー）参加者にWEBアンケートを実施した。

III. アンケートの回収数

アンケートの有効回収数は、142であった。

＜参考＞シンポジウムの開催概要

第10回 「住宅部品点検の日」 シンポジウム

人生100年時代、長く快適に住まうためには
～みんなに知ってほしい点検の大切さ～

2021年**10月6日**(水)
時間：14:15～17:45
定員：300名 (WEB収録)
※会場よりZoomウェビナーで配信いたします。
申込み期間：9月6日(月)～
※定員に達した時点で申込受付を終了する場合があります。

申込み：住宅部品点検スペシャルサイト
「ジュウテン」よりお申込みください。

プログラム

1. 開 会	受付 13:30～14:15 (45分) 14:15～14:20 (05分) 一般社団法人リビングアメニティ協会 専務理事 加藤 永
2. 来賓ご挨拶	14:20～14:30 (10分) 国土交通省 住宅局 住宅生産課
3. ALIAの活動報告	テーマ：人生100年時代に向けて住宅の点検を考えた住居設備・建材の在り方を伝える (1) 人生100年時代に向けた住居設備・建材のニーズ把握調査 14:30～14:45 (15分) 一般社団法人リビングアメニティ協会 消費者・制度部会長 稲崎 和彦 (2) ALIAからの提言(点検の大切さ、啓発ツールのご紹介) 14:45～15:00 (15分) 一般社団法人リビングアメニティ協会 住宅部品点検推進部会長 近藤 秀介
4. 基調講演	15:00～15:30 (30分) テーマ：令和時代の住まいの点検 消費者庁長官 伊藤 君子 氏
休 憩	15:30～16:00 (30分)
5. パネルディスカッション	16:00～17:40 (100分) テーマ：人生100年時代に向けて、点検の大切さを伝えるには！ コーディネーター 明治大学 名誉教授 顧問 内政 政男 氏 パネリスト 公益社団法人日本高齢生活アドバイザー・コンサルタント・研修員協会 専務理事 委員 釘宮 悦子 氏 一般社団法人日本住宅リフォーム推進協会 会長(株式会社ゆめや 代表取締役) 藤 野 勇 氏 独立行政法人職業開発機構 職業安全センター 技術指導・統括部長 博士(工学) 三浦 龍 大 氏 一般社団法人リビングアメニティ協会 住宅部品点検推進部 部会長 近藤 秀 介
6. 閉 会	17:40～17:45 (05分) 一般社団法人リビングアメニティ協会 イベントWGリーダー 高島 康弘

主 催：ALIA 一般社団法人リビングアメニティ協会 後 援：国土交通省 経済産業省 消費者庁 住宅金融支援機構 nite
協 賛：一般社団法人ベターリビング、一般社団法人住宅生産団体連合会、一般社団法人住宅リフォーム推進協会、公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター、
一般社団法人ベターライフレフォーム協会、一般社団法人マンションリノベーション推進機構、公益社団法人全国消費者生活情報協会、新築子協会、一般社団法人インターホン工業会、
万代機材工業株式会社、キョウデンバス工業株式会社、一般社団法人建築情報協会、一般社団法人リーナーシステム情報協会、Dアーク工業株式会社、日本LPガス設備協会、
日本LPガス設備協会、一般社団法人日本ガス設備協会、一般社団法人日本ガス設備協会、日本LPガス設備協会、日本LPガス設備協会、日本LPガス設備協会、
一般社団法人日本ガス協会、一般社団法人日本シッター・ドア協会、一般社団法人日本防犯工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電機システム工業会、
一般社団法人日本電機工業会、日本電機工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人日本電機工業会、
住宅金融支援機構、長期優良住宅推進協議会、公益社団法人日本消費者生活アドバイザー・コンサルタント・研修員協会、一般社団法人日本住宅リフォーム推進協会 <協賛不詳>
問い合わせ先：一般社団法人リビングアメニティ協会 TEL 03-5211-0540 FAX 03-5211-0548 (平日9:30～17:30)

IV. アンケートの結果

1. 回答者の属性

アンケートの回答者の立場・職業は、「住宅部品メーカー」が42%を占めており、これに「団体職員・公務員」が23%と続いている（図 1-1-1）。

前回（第9回）以前の結果と比較すると、立場・職業は「建築関連」「一般消費者」が増加した（図 1-1-2）。

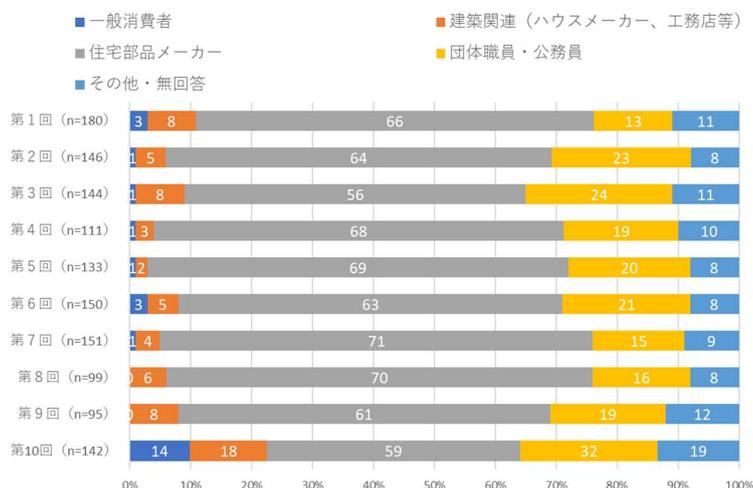
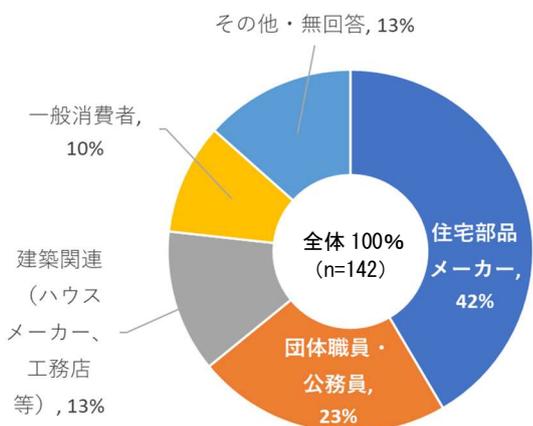


図 1-1-1 回答者の立場・職業【第10回】

図 1-1-2 回答者の立場・職業【経年比較】

2. シンポジウム全体の印象

今回のシンポジウムの印象を、項目ごとに3段階でたずねた。「良かった」という回答比率は『シンポジウムの全体の構成』が76%、『発表全体内容の印象』が72%といずれも7割を超えていたが、『発表の時間配分』が58%となった。これはオンライン開催において時間が長いとの意見があったものである（図 2-1）。前回と比べると「良かった」の回答比率は、やや低下しており『シンポジウムの全体の構成』を「良かった」と回答した比率は、前回に比べ4ポイント低下した（図 2-1、図 2-2）。

その他の意見としては、“WEB開催であるが臨場感があってよかった”という意見や“WEB開催の場合、時間配分は短縮してよい”などの意見があった。

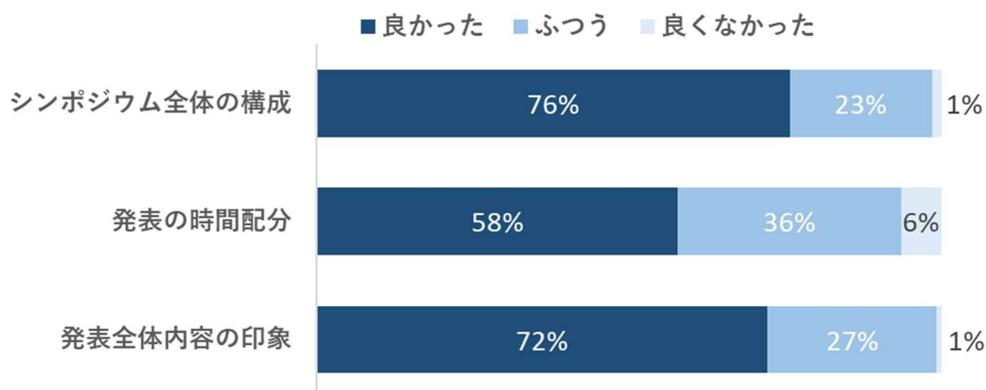
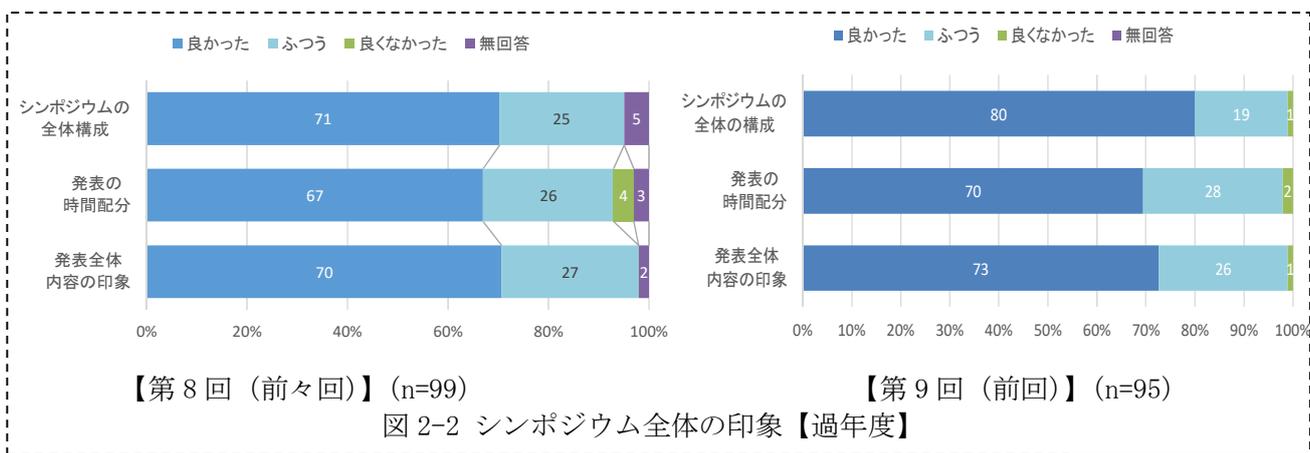


図 2-1 シンポジウム全体の印象【第10回（今回）】 (n=142)



※過去2年との比較

■ シンポジウム全体の印象・その他の内容(自由記述)

Q3. 今回のシンポジウムの印象をお聞かせください

- ・10年目の節目として、ALIAの住宅部品点検のこれまでの活動と今後の方向性を確認することができて良かった。
- ・2017年にも参加した。その際も大変参考になる話だったが、今回はより利用者目線での話を聞くことが良かった。
- ・WEB開催だが臨場感のある有意義なシンポジウムだった。
- ・WEB開催の場合、時間配分は短縮して良い。
- ・Zoomが参加しやすくてよい。
- ・Zoomウェビナーなので、資料が見やすく聞きやすかった。
- ・パネルディスカッションについてのテーマは変われど、ディスカッションの根幹(課題)は毎年それほど変わっていないように感じる。今回のディスカッションから導かれた意見や提案、および伊藤消費者庁長官のご助言をALIAの活動・成果に結びつけ、次年度のシンポウムで1つでも発表されることを期待する。(シンポジウムの意義が見いだされ、取組や活動の進化になる)
- ・伊藤消費者庁長官のお話は、行政のお立場、一消費者の目線のお話もあり、特に参考になった。
- ・開始時間を早くし、終了時間を17:00にしてほしい。
- ・開始前、休み後の少し空白の時間が気になった。
- ・今回で10回目ということで、継続の力を感じた。
- ・今回初めて参加したが、想像以上に良い内容でとても参考になった。
- ・3時間以内にしてほしい。
- ・リアルなシンポジウムを遠くから撮影している感じだったので、WEBによるメリットである発表者の表情が読み取りにくかった。”
- ・住宅部品の概要や取組みがわかった。
- ・もう少し発表者が大きく映し出されていると良い。
- ・少しパネルディスカッションが、まとまりがなかった。
- ・伊藤消費者庁長官から直に庁の取組みを聞いてよかった。長期使用製品安全点検制度の特定保守製品から、電気食洗機、浴室用電気乾燥機が外されたことを知ることができた。
- ・伊藤消費者庁長官の話がよかったし、消費者庁と連携できるのはいいことだ。消費者の実際の声とメーカーの思惑には乖離があるのでそれぞれの立場の発表者がいるのはいい。
- ・全体の流れがとてもスムーズで受講しやすかった。
- ・多様な立場(行政・ビルダー・消費者等)からのご意見が拝聴でき大変参考になった。
- ・点検というと「悪質商法」と思い込んでいたが、信頼できる事業者に頼むことは住宅を長持ちさせることにつながる重要なことであると認識を新たにすることができた。
- ・当日の資料が事前に公開され、内容を事前確認できて良かった。
- ・特に、基調講演が参考になった。

3. 参考になったプログラム

各プログラムで「参考になった」という比率は、“基調講演：『令和時代の住まいの点検』”が97%、“ALIAの活動報告（1）：『人生100年時代に向けた住宅設備・建材のニーズ把握調査』”が94%、“同活動報告（2）：『ALIAからの提言（点検の大切さ、啓発ツールのご紹介）』”91%、“パネルディスカッション：『人生100年時代に向けて、点検の大切さを伝えるには！』”が88%と、全体としては好意的に受け取られている評価であった（図3-1）。

プログラムの内容についての具体的な意見としては、基調講演は、“消費者目線で非常に参考になった。特に住まいの点検”という意見が多数あった。また、活動報告は“ALIAの活動がわかった”という意見や“新しい啓発ツールを知った”という意見があった。パネルディスカッションは“多様な立場からの意見が参考になった”との意見があった（次頁～次々頁）。

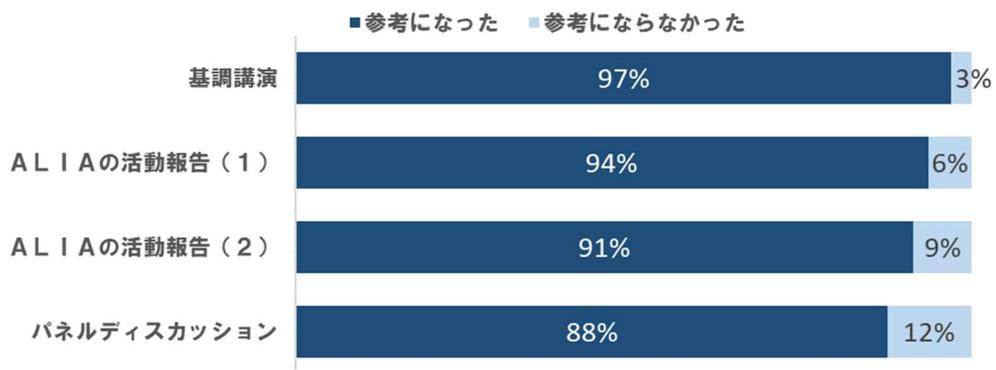
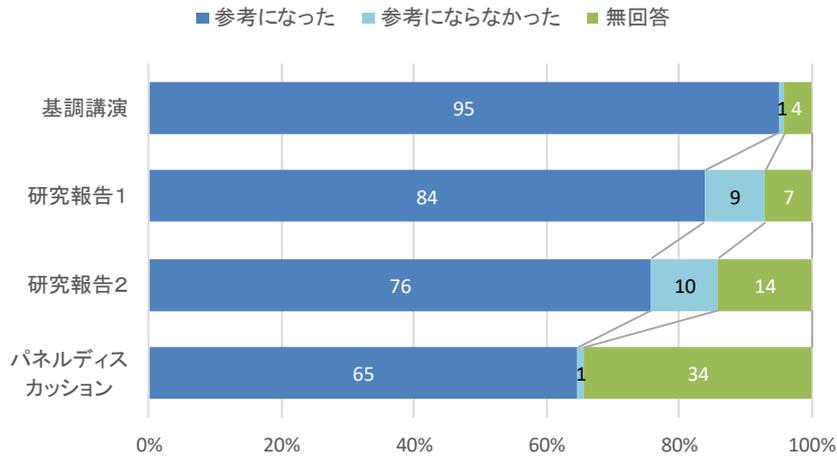


図3-1 特に参考になった内容【第10回（今回）】（n=142）



【第8回（前々回）】（n=99）

図3-2 特に参考になった内容【過年度】

※第8回と比較。
第9回は短縮開催のため、アンケートの実施なし。

■ Q 5 シンポジウムの内容で参考になった理由・参考にならなかった理由(自由記述)

- ・ 基調講演、パネルディスカッションとも発表者の視点ととらえ方が非常に参考になった。
- ・ 多様な立場からの意見が伺え、中立であるべき当方の立場において勉強になった。様々な課題に対して、落としどころとなる解決策をどのように検討していくか、ヒントがあった。
- ・ 基調講演、パネルディスカッションともに消費者視点が意識されていてよかった。
- ・ 伊藤消費者庁長官の消費者目線での住宅部品点検についてのアドバイスについて取り組んでほしい。
- ・ 参考になった：JERCO の ZUTTO あんしん事業。
- ・ 消費者への情報周知、どうすれば知ってもらえるかを考える必要があること。こちらから発信して終わりではない。
- ・ 以前は会場で関連団体の部品点検に関するリーフレットを入手でき、業界動向を把握する事ができたが、オンラインの参加だと入手ができず残念。
- ・ 基調講演もさることながら、国土交通省 宿本住宅生産課長の人間の長寿命化と建物の長寿命化が必ずしもマッチしていないとの発言は、かなり感銘した。
- ・ 伊藤消費者庁長官の基調講演を特に興味深く聞いた。
- ・ 超高齢社会に向けた住宅のあり方のヒントをたくさんいただいた。
- ・ 住まいに関わることはプロの範疇と考えがちだったが、実際は住んでいる生活者の問題でもあると分かった点がとても参考になった。
- ・ 行政・消費者・ビルダー含むメーカーと3者の考え方が垣間見え、バランスが良かったと感じた。
- ・ 部品の点検の重要性を顧客に認識させることの難しさを感じた。
- ・ 人間の長寿命化に対応できる住宅の在り方について考えさせられた。
- ・ 特にパネルディスカッションは、多岐にわたる視点での意見交換で参考になった。
- ・ 消費者・制度部会の資料が細かく、限られた時間の説明では良く理解できなかった。
- ・ 事業者、消費者、行政の考え、方向性にあまり違いがない事が確認できた。
- ・ 議論としては良いのだが、次の行動につながる内容がなかったように感じた。
- ・ 伊藤消費者庁長官の基調講演は良かった。行政がめざしている方向が確認できた。
- ・ 基調講演、パネルディスカッションにおいても幅広い立場の参加者が集い、充実した内容になった。
- ・ 伊藤消費者庁官の講演は示唆に富んだ内容であった。一方、消費者団体については、内容は昨年と大きな変化はなく、同団体を通じた消費者に対する継続した啓発活動は必要であるが、登壇者としての招聘や連携方法については検討の余地があるように感じた。
- ・ 伊藤消費者庁長官の話は分かりやすく、提言もあり、内容も濃かった。
- ・ ALIA の取り組んでいる内容や、政府の方針、企業・団体へ期待することなどよく理解できた。
- ・ それぞれの立場の話から、目指しているのは安全安心ということが確認できた。
- ・ 安心して相談できる住まいや暮らしの専門家が、まだまだ少ない。
- ・ 話し方もあるが、個人的には基調講演が良かった。
- ・ 自主的な点検の必要性はよくわかるが、やはり緊急時の専門知識のある業者へ迅速に連絡が取れる仕組みが必要ではないか。
- ・ 全テーマのベクトルが住宅部品点検の必要性に向かっていたので良い。
- ・ 基調講演では伊藤消費者庁長官から貴重なお話を聞くことができ色々と参考になった。
- ・ 時代に即した題材であり大変参考になる内容だった。
- ・ ALIA の役割が明確になったと感じた。
- ・ 新たな情報を得ることもたやすくなく、貴重な機会であることに変わらない。
- ・ 特に伊藤消費者庁長官の話は、メーカー、ユーザーの双方に点検を示唆する内容で良かった。
- ・ BL 活動の参考になった。
- ・ 大きな意味での住まいの点検と、住宅部品の点検を結びつける事が参考になった。
- ・ それぞれの専門分野での話を興味深く聞いた。
- ・ 各団体の取組・課題の説明が、よく理解できた。
- ・ 10回を重ね進化してきたので、今後は消費者目線に主眼をもたせる議論のステージが必要だ。
- ・ 消費者行政の動き、パネリストの立場別での取組みを理解した。
- ・ ALIA の報告が長かった。
- ・ ALIA をはじめ、各団体の取組みを知ることができたことや、消費者に対してどう伝えるのか考える機会になった。

- ・伊藤消費者庁長官の話は、消費者目線からの講演で非常に参考になった。事業者として考えを改める部分もあった。
- ・次の世代に住宅をつなぐことを念頭におくことがわかった。
- ・住宅部品の点検などの重要性と課題がわかった。
- ・パネルディスカッションにおいて、それぞれの立場からの意見が、とても参考になった。
- ・メーカーの立場ではなかなか聞くことができない消費者行政のトレンドやリフォーム事業者、消費者団体の考えを聞くことができた。
- ・伊藤消費者庁長官の辛口講演はさすがで、メディアとして多くの示唆を与えられた。
- ・伊藤消費者庁長官の話はわかりやすく、示唆があり、助言を得られた。特に住まいの点検の視点。そのうちの安心の3つ（使い方の適正化、使いやすさ、事故防止）。「住まい」の点検か、「住宅」の点検か、「住宅部品」の点検かといった視点。これからの住まいの点検3つ。消費者行政の基本的方向性について共感。
- ・住宅部品 経年劣化スタディブックなど新しい情報を得られた。ディスカッションは昨年から大きな進展がなかった。
- ・パネルディスカッション：各分野（業界）の方の意見が聞けて参考になった。
- ・基調講演における点検という事に対する考え方は、「住宅全体での考え方が一般的」と理解した。
- ・基調講演において、災害に備える必要性が高まり、点検に対するハードルが上がっている点。
- ・点検の必要性を浸透させるだけでなく、実際に点検するにあたり、誰が点検すべきかを明確にする必要性。
- ・パネルディスカッションにおける釘宮さんのコンソーシアム的なイメージが参考になった。
- ・悪質リフォーム業者について、終始話題の中心になっていたように思う。
- ・早期に不具合を発見することが大事だと、痛感させられる内容だった。
- ・住まい手が、住宅部品の点検をうけることを義務化すべきではないか？メーカー責任としての運営が良いのか保険運用としたら良いのか検証し進めなければならない。

4. “住まい手に点検文化を広めること”について

今回のシンポジウム全体を通して“住まい手への点検の文化を広めること”について、全体の85%から「非常に必要だと感じた」との回答が得られた（図 4-1-1）。

過去の結果と比較すると「非常に必要だと感じた」比率は、第4回、第9回が85%と同じであった。（図 4-1-2）。

必要性を感じた理由としては、「安全・安心に使うことができるから」（31%）、「正しい使い方やメンテナンスについても関心や意識を高めることができるから」（24%）などである。（図 4-2-1）。前回までの結果と比べても、回答数に違いはあるが選択肢の順位に大きな変化はない（図 4-2-2）。

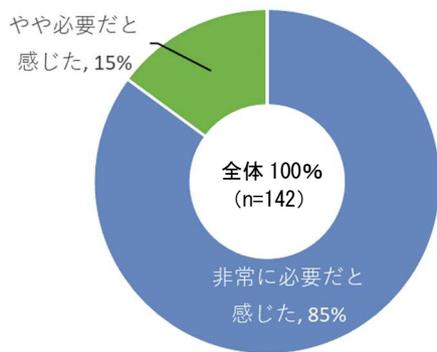


図 4-1-1 点検文化を広めることについて【第10回】

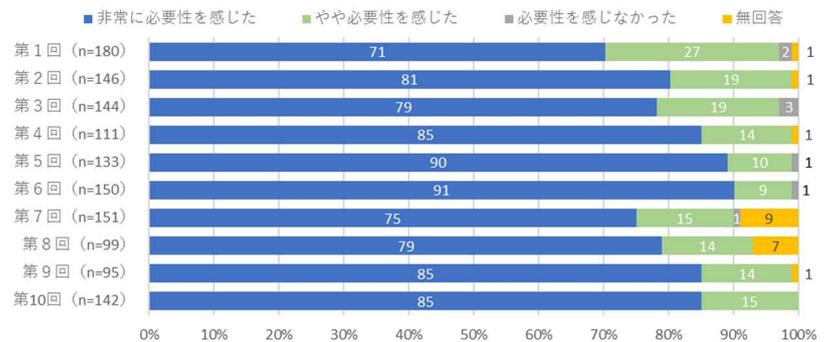


図 4-1-2 点検文化を広めることについて【経年比較】

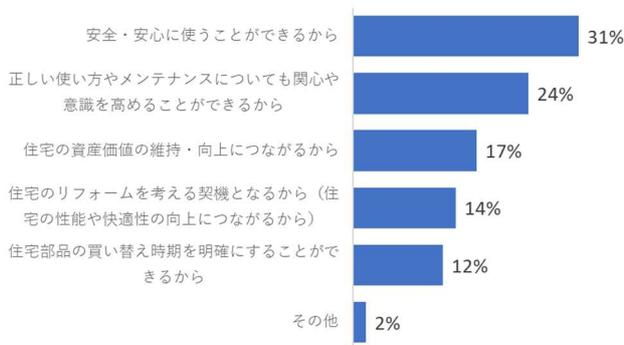


図 4-2-1 必要だと感じた理由【第10回】(n=142)
(複数回答)

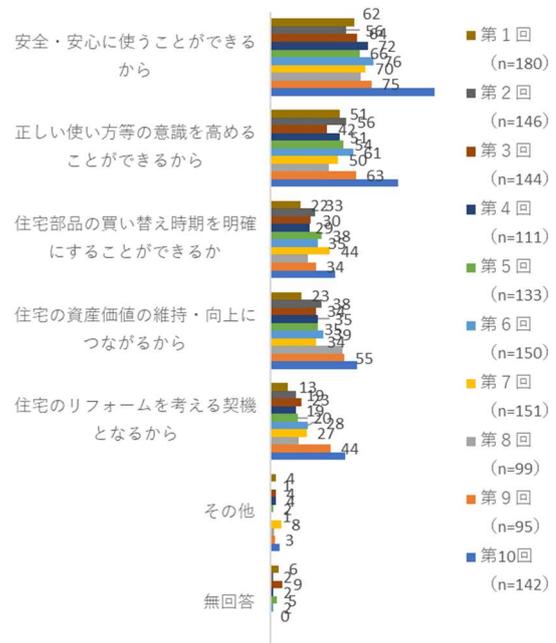


図 4-2-2 必要だと感じた理由【経年比較】
(複数回答)

(注) 第1回調査では、“住宅部点を点検する必要性”、第2回調査では、“保守点検の重要性”、第3回調査は“点検の重要性”、第4～5回調査は“点検の必要性を伝えること”について聞いた内容となっている。

■ その他の具体的な内容（自由記述）

Q7. シンポジウム全体を通して、“一般消費者に点検をすすめることとすすめ方”についてどう思われましたか。「非常に必要と感じた」「やや必要だと感じた」その理由をお聞かせください。

- ・使う側の責任についても啓発していくことにつながると思うため。
- ・住宅履歴情報を活用し、購入時にメンテナンス計画を示すため。
- ・事故などの未然防止につながるから。
- ・部品の耐用、機能、性能を確認、気づかせてくれるから。
- ・点検が目的でなく安全に生活してもらう事が目的と考えるため。

5. “住宅部品点検の必要性”や“点検文化を広めていく”には

一般消費者に“住宅部品点検の必要性”や“点検文化を広めていく”には、主導が望ましい組織・団体は、「行政機関」(23%)がもっとも多く、「住宅部品関連の業界団体 (ALIA等)」(17%)、「消費者団体」(17%)などが続いている(図5-1)。

また、有効だと思う方法は、「テレビ・ラジオ」(27%)、「イベント(シンポジウム・展示会等)」(17%)、「新聞・雑誌」(17%)、「SNS(ツイッターやフェイスブック等)」(17%)などが多くなっており(図5-2)、より公共性の高い組織・団体等が、マスメディアを通じて、広く啓発・広報を行っていくことが期待されている。前年度と比べ、主導が望ましい組織・団体等については「行政」が2ポイント増加、「住宅部品関連の業界」「住宅建設会社」「住宅建設関連の業界団体」が2ポイント減少。また、有効だと思う方法については、「テレビ・ラジオ」が3ポイント増加、「SNS」が2ポイント減少している。

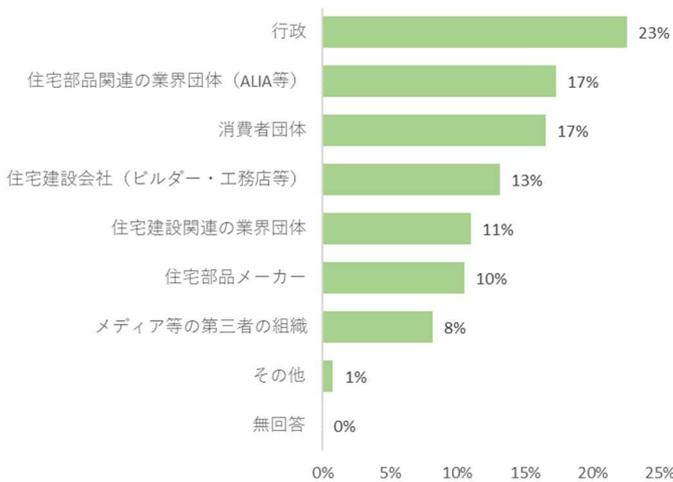


図5-1 主導が望ましい組織・団体等
【第10回】(n=142) (3つまで複数回答)

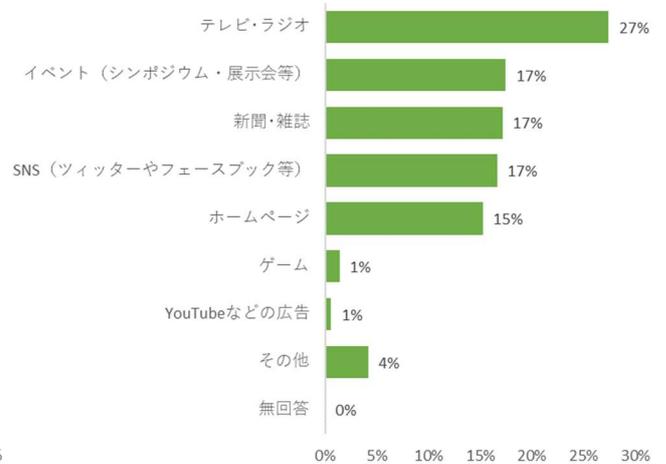


図5-2 有効だと思う方法
【第10回】(n=142) (3つまで複数回答)

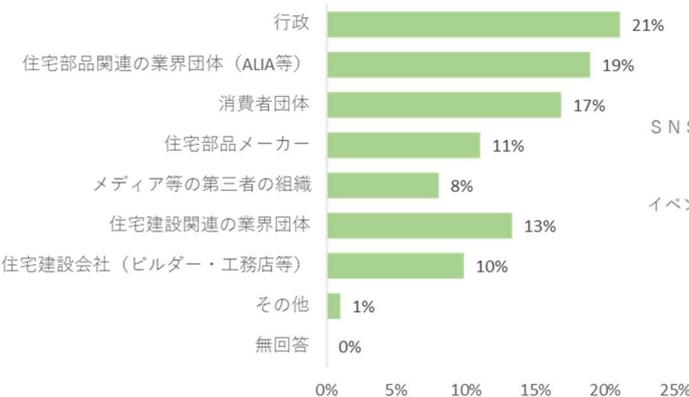


図5-3 主導が望ましい組織・団体等【前年度】
【第9回】(n=95) (3つまで複数回答)

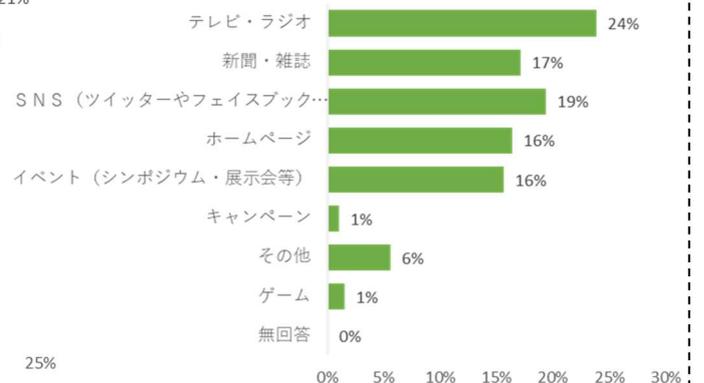


図5-4 有効だと思う方法【前年度】
【第9回】(n=95) (3つまで複数回答)

■その他の内容（自由記述）

Q9.一般消費者の方々に“住宅部品点検の必要性”や“点検文化を広めていく”にはどのような方法で行うのが有効だとお考えになりますか。

- ・啓発講座
- ・販売・設置段階からメーカー、業者主導でプログラムすべきで、住まい手に期待すること自体にやや無理がある。
- ・子供への教育！大人にはもう期待できない。
- ・住宅の長期保証とセット。
- ・行政の施策。
- ・取替現場で説明する。
- ・法律などで規制する。
- ・設置したメーカーが消費者をフォローをするときに情報提供する。
- ・条例など強制的な制度で点検を行う（一部製品）。
- ・住宅部品点検に関するアドバイザー資格制度や検定制度の創設。
- ・住宅購入時、設備機器交換時に事業者から直接説明があると有効だと思う。
- ・建物の定期点検時に啓発する。
- ・住まい手に求めるだけでなく、耐用、機能、性能などに対するメーカー責任の見える化の周知。

6. 今回のシンポジウムに関するご意見・質問

- ・非常に参考になるのに、シンポジウムの周知がまだまだ不十分。いろいろな団体に事前案内が必要。
- ・住まいの点検をすることで資産価値を下げず次世代に伝える、という考え方に共感。
- ・いかにエンドユーザーとの距離を縮めるかが永遠のテーマ。
- ・まだ使える住宅部品を交換／修理することに、お客様は抵抗を感じると思う。
- ・予防保全として、「壊れる前に交換」することのベネフィットをお客様に伝える必要がある。メーカー、業界団体、消費者団体など、あらゆるチャネルによる啓発が必要。
- ・これまでの取り組みの総括の様な印象もあり良かったが、アクションプランの考え方が少し甘い。国内外の異業種の成功事例をベンチマークする等、視点や発想を変えて行かないと根本的な改善には結び付かない。
- ・イベントの構成を全て、消費者目線に変えて欲しい。平日なので難しいと思うが、消費者の参加を検討して欲しい。
- ・Z o o mウェビナー開催だが、会場よりも集中して聴くことができた。
- ・住まい手にどのようなサポートを行うことが良いのか、大きな課題について今後もシンポジウムを継続してほしい。
- ・短期ベースの啓発活動と合わせて中長期視野での新しい規格化等の検討に期待。
- ・今後はオンラインも含め、一般消費者も参加できると良い。その場合は少々時間を短縮する必要性と、特にALIAからの活動報告をより消費者に寄せる必要性がある。
- ・住宅点検・維持管理は当たり前の事だが、現実には実行が難しい。生活者への注意喚起や点検実施を促す方法が参考になった。
- ・定期的な点検（1年1回1時間）等、大変参考になった。
- ・司会のマイクボリュームだけがとても大きく、非常に聞きづらかった。
- ・住宅部品は消費者が点検交換を意識していないと思うので、意識づけを浸透する対応をしてほしい。
- ・長く続けてほしい。
- ・限られた時間だったが、伊藤消費者庁長官は他での経験も豊富で、自分の言葉で方針、対応していることを話されていた。
- ・ALIA 活動報告ではモニター表示のパワーポイント資料のどこを説明しているのか分かり難かった。カーソルで示すことが必要。（原稿に目を落とすすぎ）

- ・消費者団体とはこれを機に活動を深めていければ良い。
- ・伊藤消費者庁長官の話が明確で分かりやすく、本当に素晴らしかった。
- ・オンライン開催の場合はもう少し時間が短い方が集中できる。
- ・音声がとても悪くて聞き取れない時間が結構あった。全く聞こえない他、雑音が入った。
- ・安全・安心のための点検から性能向上のための点検につなげたい。
- ・WEBも慣れてきたので何か新しい見せ方の提案があってもよい。
- ・消費者に広める活動としてのシンポジウムを目指してほしい。
- ・今後とも是非継続してほしい。
- ・住宅の寿命は、30～40年だと思っていたが、適正なメンテナンスで長持ちできるようだとうわかった。
- ・今回初めて参加したが、とても参考になった。是非次回も参加したい。
- ・パネルディスカッションでは、チャットで質問できる手段があると良い。
- ・信頼できる情報筋としてALIAが認知されることが一番の近道。
行政のクレジットももらって、メディア発信を強める時期に来ている。
- ・消費者保護の立場から考えた場合、悪徳業者に引っ掛かるのは主に高齢者だ。高齢者はIT弱者の為、行政や関連団体がいくらHPを充実しても触れる機会が少ない。高齢者(IT弱者)に訴求するには、チラシや紙ベースの物を民生委員等(厚労省管轄)に配布してもらう等の工夫が必要では？
- ・縦割りの行政を見直し、国交省&経産省&厚労省がタッグを組んで取組む事が重要。
- ・勉強になった。
- ・パネルディスカッションで「消費者へ上手く情報伝達する方法(策)」をパネラーに質問されたが、その回答を得ることができなかった点が残念。
- ・良いリフォーム業者の選び方について、2年連続回答できていない。
- ・自分で点検！ハンドブックやシンポジウムのPRはまず区報等(地公体発行の定期発行物)で行う。高齢者の目に留まりやすく、信じてもらいやすいと思う。
- ・リフォームを考えていた時だったので、住宅部品や事業者の選び方について、とても参考になった。
- ・パネルディスカッションが「悪徳リフォーム業者対策」になったのは残念！
- ・失礼ながらALIAを知らなかった。紹介された点検のハンドブックなどを消費者に案内し、点検の重要性を啓発していきたい。

7. 次回シンポジウムで取り上げて欲しいテーマ・講師等のご希望

- ・住宅部品における流通システムの説明(メーカー、販売店、施工店等の違い)
- ・家具等の設置も含む安全な屋内のレイアウトについて
- ・メンテナンス業者の実体験と声
- ・住宅部品・設備の経年変化の概念
- ・消費者団体が、消費者向けにどのような住まいに関する情報提供がなされているかが知りたい。
(それを知ることで、ビルダーや私のような建築士に何ができるかを考える契機になる)
- ・異常気象に耐える住宅部品の選び方
- ・「住宅部品点検の日」を広く伝える術を発信できる方
- ・法令点検制度の実態と動向を通して、住宅点検を考える
- ・住宅メンテナンスの実態がわかる住宅メーカーの調査報告等
- ・電力やガスの会社の定額制の点検・メンテナンスサービスについて
- ・点検時期等のお知らせや推進方法について
- ・点検を怠ってしまったための事故事例や軽微な不具合事例など、具体的に生々しい内容に興味がある。
- ・ディスカッションに行政も入り、消費者への情報発信について議論してはどうか。
- ・経済産業省製品安全課による基調講演なども検討してみたい。
- ・点検項目、点検内容について、使用者との乖離について
- ・安全・安心のための点検？性能向上のための点検？「点検の目的意識の多様化」について
- ・住まいるダイヤルの事例紹介

8. Zoom ウェビナーについて

参加（入室）については全体の 99%が「簡単だった」とあげており、コロナ禍でテレワークなどか進み、オンラインでの会議開催ツールが広く参加者にも知れ渡り、定着していることがうかがえる（図 7-1）。音声については「聞き取れた」が 94%（図 7-2）、映像については「問題なく見られた」が 96%（図 7-3）と混乱なく配信できていた。オンライン開催については「地方のため、大変便利」「コロナ感染症収束後も WEB 併用のシンポジウム開催をお願いしたい」などの好評な意見が多数あった。

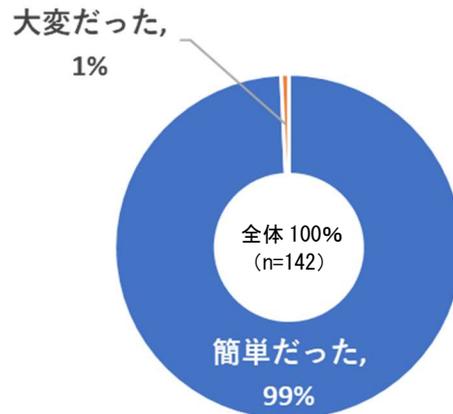


図 7-1 Zoom ウェビナーへの参加（入室）はどうでしたか。
【第 10 回】 (n=142)

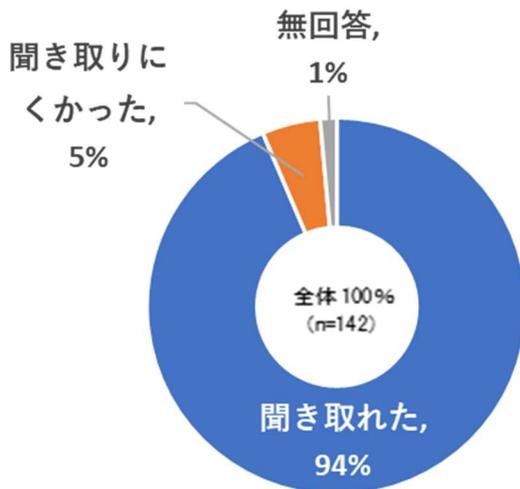


図 7-2 音声の聞き取りはどうでしたか。
【第 10 回】 (n=142)

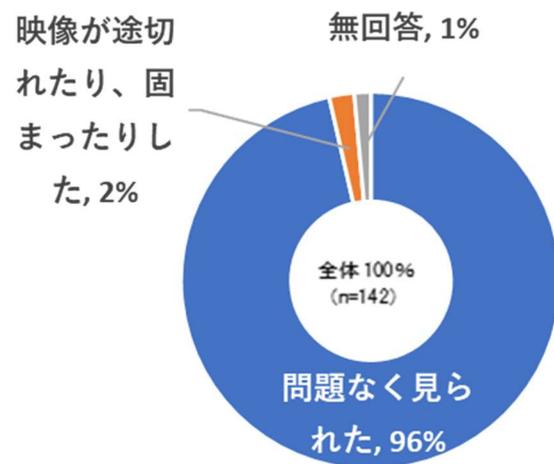


図 7-2 映像はどうでしたか
【第 10 回】 (n=142)

■ その他の具体的な内容（自由記述）

Q1. Zoom ウェビナーによる視聴についての意見

- 会場への出席は難しいことが多いので、Zoom ウェビナー開催を希望。
- 当方式を継続強化。
- 聞いている音声小さくなるがあった。技術的に難しいかもしれないがマイクレベルを調整していただけると、もっと聞きやすくなる。
- 富山県からの参加であった為、Zoom での視聴で大変便利で助かった。
- 今後もこの方式が良い。
- パネルディスカッションではマイクのせいか聞き取れない時があった。雑音を拾ってしまうケースもあり途中でヘッドフォンを外して聴講した。
- コロナ感染症収束後も WEB 併用のシンポジウム開催を希望。
- コロナが収まった場合でもぜひ Zoom での参加を可能にしてほしい。
(直接会場に行くのであれば、おそらく参加する時間的余裕がない)
- 時間の制約が少なく参加しやすい。今後も継続希望。
- 問題ないレベルだが、解像度がさらに UP すればベター。
- 地方に住んでいるため、通常のセミナーでは経費が掛かるので、Zoom ウェビナーであれば受けやすくてよい。
- カメラの映像について、もう少し検討してほしい。
- 移動の時間削減や聞き取りやすさなどメリットが多いため、今後もぜひ WEB 開催を継続希望。
- コロナ後も WEB 併用での実施を希望。
- とても聴きやすく画面も明瞭でわかりやすかった。
- 民間のセミナーも参考にされた方がよい。非常に綺麗で分かりやすい。
- 途中途中で、発言者の声がマイクに届かないことがあった。
- 会場に赴くより容易に参加できるので良い。
- テストを十分に行ってください。
- カメラ操作する方があまり慣れていない。
- 資料の抜粋版のダウンロード化。
- 使いやすく、画面共有も良く確認できた。
- コーナーや話し手によって音声ボリュームが異なっていたのが、気になった。
- 画面共有資料は鮮明だが、会場の画質はいまひとつ。
- 講演者の発言の音声ボリュームをもっと大きくしてほしい。PC の音量設定 100% でも聞き取りにくいところがあった。事前のリハーサルをチェックするといいい。
- 画面が小さくて、発表者の顔がよく見えなかったのが残念。
- 登壇者で音量がかなり違ったのでマイク調整&開催中にイヤホンでの監視をちゃんとやっておくといいい。

V. アンケート結果のまとめ

1) 今回のシンポジウムの内容に対する参加者の評価

「住宅部品点検の日のシンポジウム」は、2012年（平成24年）から毎年実施しており、今回（2021年/令和3年）は、第10回目の節目の開催となるものである。参加者には、「住宅部品メーカー」（全体の42%）、「団体職員・公務員」（同23%）、「建築関連」（同13%）など、関連する住宅部品や建築関連業界の関係者が多く含まれている。

アンケートでは一貫して消費者目線でのプログラム構成であったことを高く評価いただいております。本シンポジウム開催により住宅部品の点検文化の醸成に向けた方向性を示すことができたものとする。

2) 今回のシンポジウムについての問題点（次回開催に向けての課題・検討事項）

■建築関連や消費者などの参加

シンポジウムの性格上「住宅部品メーカー」など業界関係者が参加者の中心となったが、ALIAが目指しているお手入れ・点検の文化醸成を広く広めていくためには、シンポジウムを通じて情報発信していく必要があるため、他との連携を強化しさまざまな分野の参加者を増やしていくことが、引き続き運営上の課題と考えられる。

■プログラムの時間配分

昨年に続き、WEBによりオンライン開催したが、時間が長いとの意見が多くみられた。点検について、参加者へわかりやすく、何を伝えていくのか、ポイントを絞ったプログラム構成にしていくことも必要である。

3) “住宅部品の点検”を推進していくための課題

■安全・安心への関心と、点検の必要性に対する意識をさらに高めるような周知が必要

今回のシンポジウム全体を通して、“住まい手への点検文化を広めること”について、全体の85%から「非常に必要だと感じた」との回答が得られた。第9回の結果と比較しても同様の回答が得られており、今後も点検の重要性を引き続き発信していく必要がある。

■点検文化の醸成・浸透が望まれている

“住宅部品点検の必要性や点検文化”を広めていくためには、行政など公共性の高い機関・団体が主導し、テレビなどのマスメディアやSNSを通じて情報発信を行うことが昨年同様に期待されている。

■点検の法制化、行政の支援

“住宅部品点検の必要性や点検文化”を広めていく手段として、住宅購入時での周知や点検制度の法制化の声もあり、住宅関連のさまざまな制度に住宅部品の点検が盛り込まれていくよう引き続き行政の支援を求めていくことが必要である。

4) “WEB開催”について

昨年に続きWEBによりオンライン開催したが、WEB開催の評価は高く今後もWEB開催を望む声が多い。またWEBとリアル会場併用開催を望む声もあり、時間配分を含めたプログラム構成やシステムの問題等課題もまだ多く、引き続き十分な検討が必要である。